

令和5年度 教養教育科目 シラバス

科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>基礎的な経済学を学ぶことにより、生活に関わる様々な経済の仕組みを理解できるようになることを目指しつつ、経済問題について考察し、日常の選択について自ら考えることができるようになる。これにより学生が自身が社会に貢献することの意義を知り、また自らのライフ・イベントに付随する経済問題を理解しその対処を考え、より良い選択が行えるようになることを目的とする。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義について理解し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、説明できるようになることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>経済の問題と聞くこと難しいと身構えてしまうことが多い。しかし、日々の生活において金銭を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種である。また、自身が収入の獲得する様々な手法（働いて給与を得る、事業を営む、あるいは配当金や家賃収入を得るなど）や、クレジットカードの利用・住宅ローンの選択なども経済の問題である。経済社会における価値の創造から自らの貯蓄の手法に至る、収入と支出に関わる問題への対処を学び、身近な話題から「経済」について理解する。</p> <p>【SDGs：1, 4, 8, 9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめにーオリエンテーション ② 経済の指標の取り方 ③ 価値と市場についてーGDPの基礎概念 ④ 生産活動と所得ー「分け前」の獲得 ⑤ 誰がお金を使ったか？ー消費と企業活動 ⑥ 市場の均衡と景気 ⑦ 資産とは何かーポートフォリオ・セレクション ⑧ お金の「価格」とは何か ⑨ 消費者の満足とはー効用水準 ⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値） ⑪ 何を買うのか？ー消費の選択 ⑫ 満場一致が望ましいーバレートの意味での効率性 ⑬ 企業活動ー利潤と費用 ⑭ クレジットカードの意味ー支出と所得と時間の関係 ⑮ 異時点間の消費選択ー住宅ローンに代表される借入れの問題 ⑯ 定期試験ー記述式 		
予復習等	<p>【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】 提示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨むこと。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。		
参考書	講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入を要するものではない。		

科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>・北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができる。 ・福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどういうものかを、自分なりにイメージすることができる。 ・最終的に北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、自分なりに考えることができる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】 近年、スウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。 また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支援する国の姿＝福祉国家について楽しく学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。 本講義は実物や映像を見ながら、調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。 【SDGs：1, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 日本の中の北欧を探す ② 北欧デザインから幸せの支援を考える ③ 映像で見る福祉国家の生活 ④ 誰もが安心して暮らせる普遍主義 ⑤ 福祉の先進地域・北欧5カ国を知る ⑥ 北欧の言語と移民政策 ⑦ 本当の教育を考える ⑧ 現場重視の福祉制度 ⑨ 最低限の生活費を確保する ⑩ 家事や育児を分担する家庭と社会 ⑪ 話し合いで心を癒やす精神科治療 ⑫ 北欧諸国について調べる ⑬ 人を助ける経済のしくみ ⑭ 社会をコントロールする政治の力 ⑮ 日本で幸せを支える福祉を考える ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】 授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	現代社会と法律 Modern Society and the Law	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄（2年後期）	科目区分	講義
担当者	小牧 亮也	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義は、学生が、法の観点から物事を評価する能力（法的思考力）を身につけられるようにすることを目的とする。その際、本講義では、できる限り具体的な問題を提示するが、現代社会においては、法（だけ）では解決できない問題もしばしば存在する。そのため、本講義は、学生が、法の意義だけでなくその限界も同時に理解できるようにすることも目的とする。		
授業概要	法学の主たる目的の一つは、法令の条文の意味内容を明らかにすること（法解釈）であるが、本講義では、法解釈の技術的な知識を身につけることよりも、世の中で生起する諸問題を法的な観点で捉えられるようになることに重きをおく。そのため、講義では、できる限り現実に起きている具体的な問題をとりあげ、法的思考力を身につけられるように心掛ける。それと同時に、世の中には、法（だけ）では解決できない問題があることも実感できるような内容にしたいと考えている。 なお、本講義で扱う具体的な問題は、受講生の関心を参考に決めていくことがある。したがって、受講生には、日頃から政治や社会の動きに対して広く関心を持っていることが求められる。 【SDGs：5, 10, 11, 16】		
授業計画	① ガイダンス ② 法とは何か ③ 公法の基礎①：憲法 ④ 公法の基礎②：行政法 ⑤ 公法の具体的事例：ヘイトスピーチ規制をめぐる憲法と行政法 ⑥ 刑事法の基礎①：刑事訴訟法 ⑦ 刑事法の基礎②：刑法 ⑧ 刑事法の具体的事例：終末期医療と刑事事件 ⑨ 民事法の基礎①：民法 ⑩ 民事法の基礎②：民事訴訟法 ⑪ 民事法の具体的事例：夫婦同氏制から考える家族と法 ⑫ 国際法の基礎 ⑬ 国際法の具体的事例：国際人権機関との「対話」 ⑭ 外国人と法：名古屋入管収容者死亡事件 ⑮ 総括・補足 ⑯		
予復習等	予習：受講前に次回のレジュメに目を通し、そこに出てくる単語や具体的な出来事のうち、わからないものについて最低限の下調べをしておく。 復習：毎回の授業の内容を1000字程度の文章にして他者に説明できるようにする。 その他：新聞を毎日読む。		
評価方法	レポート（100%）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。レジュメと資料を配布する。		
参考書	大戸常寿＝石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021年） 原田大樹『現代実定法入門（第2版）』（弘文堂、2020年） 緒方桂子ほか編『日本の法（第2版）』（日本評論社、2020年）		

科目名	課題創造演習 Problem Finding and Program Creating	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期） 英文・国文・食栄・生デ（2年後期）【岐阜学関連科目】	科目区分	演習
担当者	臼井 直之／鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、これまでの正しさの論理をめぐり、分野の垣根を超えながら知識を共有し、それを発展的に展開していく能力を養う。具体的には、以下の3つを身につけることを目的とする。 1. 変化する社会に潜む課題の発見 2. 分野を横断した議論の方法 3. 正解の無い問いに対処する方法		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 これまでは、与えられた課題を解決する力を備えた人材が重宝されてきた。そのため、解決策を学ぶことや、そのためのスキルを覚えることが、大切だと思われてきた。しかし、近年、社会情勢はこれまで以上の加速度で変化し、さらに多様化している。そのため、これまで正しいと思われてきた論理にて意思決定をしていては、人々の幸福につながらないケースが発生すると考えられる。本演習では、前半で議論・促進・抽出の方法を学んだのち、受講者によるグループワークやディスカッションを行い、正解の無い問いに対する対処方法および表現方法を学ぶ。 【SDGs：11】 【岐阜学関連の授業回：全授業】		
授業計画	① ガイダンス ② 多様な社会課題 ③ 議論・促進・抽出の方法 ④ ディスカッション（課題抽出） ⑤ 文献調査 ⑥ ディスカッション（課題抽出） ⑦ ディスカッション（調査計画） ⑧ 現地調査 ⑨ 現地調査 ⑩ 調査結果発表 ⑪ ディスカッション(表現方法) ⑫ 制作（Adobe、パワーポイント） ⑬ 制作（作業） ⑭ 制作（作業） ⑮ 成果発表		
予復習等	【予習】本演習の第一回目までに、参考書を一読しておくこと。 参考書にはマンガ版を示したが、同様のタイトルの新書版でも良い。 【復習】授業の内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度50%、課題50%		
履修条件	集中講義であるため、開講時期に注意すること。現地調査など、学外へ移動することがある。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『マンガと図解でわかる 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』/山口周 / 出版：光文社		

科目名	生物学 Biology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	三宅 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	生物学（生命科学）は急速に研究が進んでおり、医療分野への応用や自然環境の保全等、私たちの生活に深く関わる分野である。本授業では、学生が生物学の基礎的な知識を理解し、生物学をめぐる諸問題に対し、どのように考え行動していくかを習得することを目的とする。今後、生物学の知見や技術が応用される社会を想像し、新たに生じうる問題に対し、学生が自ら情報収集に努め、個人として、市民として、さまざまな立場や観点から自らの考えをもって議論できるようになることを達成目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：大学において研究および教育に従事した経験あり。】 生命の本質は2つある。その一つは、報を自己複製することで後世に伝えていくこと、そしてもう一つは、代謝活動により個体の生命活動を維持することである。本授業では、まず生命の基本単位である細胞の構成要素、各器官の働き、遺伝について学び、さらに生命活動を、生殖方法、発生、機能分化などの観点からみることで、どのように個体が維持されているかを学ぶ。最後に、生物と環境の関わりや生命科学の諸問題について、最近の話題を取り上げながら、生命科学と社会の問題を考える。なお、開講順と開講テーマは変更される場合がある。 【SDGs：3, 5, 10, 13, 15】		
授業計画	① 生命とは ② 生命の誕生と変遷 ③ 組織と細胞、構成要素 ④ 細胞の活動、組織と器官 ⑤ 細胞分裂と遺伝、染色体・DNA・遺伝子 ⑥ 様々な遺伝 ⑦ 発生、機能分化 ⑧ 生殖方法 ⑨ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用 1 ⑩ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用 2 ⑪ 科学史の中の生命科学 ⑫ 生命科学の最前線 細胞の初期化 ⑬ 生命科学の最前線 再生医療 ⑭ 生命科学の最前線 生殖医療と遺伝子診断 ⑮ 生命科学をめぐる諸問題 ⑯ 定期試験－記述式		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、新聞やテレビ・インターネットのニュースなどで最新の情報に触れるように努めること。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況 20%、授業後のコメントペーパー 20%、定期試験 60%		
履修条件	学修規程による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし、プリントを配布する		
参考書	なし		

科目名	岐阜学入門 Gifu Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	【授業目的】 ・岐阜をフィールドにした学びを通して岐阜の歴史・文化・現状を知る。 ・岐阜地域の抱える様々な課題に関連する情報をリサーチし、考える。 ・リサーチと並行して課題を解決する能力を高め、仮説を提案する。 【到達目標】 ・岐阜地域の歴史・文化・現状を理解し、自分の言葉で簡潔に説明することができる。 ・岐阜地域の課題を見つけ、課題解決に向けて情報収集することができる。 ・情報を整理し、問題と解決策の構造を把握し説明することができる。 ・岐阜市および岐阜地域の課題解決に向けた取り組み（仮説）を提言することができる。		
授業概要	【担当者の実務経験：授業計画の①、⑤、⑦、⑧、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮の各テーマについて現役または勤務経験のある学外講師が担当】 毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式の講義を受講し、岐阜の「歴史・文化」と「現状」について学ぶ。実務経験者が担当する回は、最新の現状や現場の実体験をもとに授業を行う（開講順は変更する場合がある）。最終回には、受講した講義内容から各自が取り組みたいトピック（テーマ）を設定し、よりよい岐阜市および岐阜地域になるための提案書「岐阜市の未来社会を創造する」に取り組み。 【SDGs：4, 5, 11】 【岐阜学関連の授業回：全授業回】		
授業計画	① ガイダンス及びデザイン思考 【担当：副学長・岐阜大学 教員】 ② 岐阜と食文化・食育① 【担当：健康栄養学科 教員】 ③ 岐阜と食文化・食育② 【担当：健康栄養学科 教員】 ④ 岐阜と食文化・食育③ 【担当：健康栄養学科 教員】 ⑤ 岐阜の農作物・畜産物 【担当：岐阜県農政部 農産物流通課】 ⑥ 岐阜の観光①（地域文化の活性化） 【担当：国際コミュニケーション学科 教員】 ⑦ 岐阜の観光②（岐阜のもてなし） 【岐阜市 魅力づくり推進部観光コンベンション課】 ⑧ 岐阜市における国際化の現状 【岐阜市 魅力づくり推進部 国際課】 ⑨ 岐阜の地域の産業と暮らし①（ファッション産業） 【担当：デザイン環境学科 教員】 ⑩ 岐阜の地域の産業と暮らし②（土育・木育） 【担当：デザイン環境学科 教員】 ⑪ 岐阜の地域の産業と暮らし③（産業全般） 【担当：岐阜市 経済部 商工課】 ⑫ 岐阜とジェンダー 【担当：岐阜県 健康福祉部 子ども・女性局 子ども家庭課】 ⑬ 岐阜市の公共交通について 【担当：岐阜市交通政策課】 ⑭ 岐阜における環境共生 【担当：岐阜市 環境部 環境保全課】 ⑮ 「世界農業遺産－清流長良川の鮎」と伝統漁法 【担当：学長・長良川漁業協同組合・岐阜県農政部里川振興課】 （講義テーマの詳細は、ガイダンスまたは各講義で伝える）		
予復習等	【予習】各回のテーマについての概要や現状を調査しておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問点は調べて理解を深めること。期限内に課題を提出すること。		
評価方法	出席状況・受講態度、各講義の課題提出、提案書等を総合評価する（詳細はガイダンスで伝える）。		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	参考資料は適宜配布する。		

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な計算問題が解けるようになる。また、紫外線や食品の話題から、エネルギーの意味について考える。食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。</p>		
授業概要	<p>日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかがわりがある。化学が普段の暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。 たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解ができるように配慮し、なるべく身近な事柄、たとえば、食品や生体に含まれる成分などを題材に取り上げ、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。 【SDGs：3,4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 元素と元素記号 ③ 物質の測定 ④ 紫外線① ⑤ 紫外線② ⑥ カロリー（エネルギー） ⑦ ダイエット① ⑧ ダイエット② ⑨ ダイエット③ ⑩ 身のまわりの酸と塩基 ⑪ アルコール① ⑫ アルコール② ⑬ 食品中の有機化合物 ⑭ 食品中の無機化合物 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。 【復習】ノートに整理し、理解する。</p>		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし。		
教科書	『わかる化学』／著：松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし。		

科目名	日本社会の歩み Japanese History	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	森田 晃一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>歴史を学ぶことは、たんに過去の事実を知識として習得することではない。過去と現在との間には密接な関係が、ときには緊張感さえたよう関係が存在する。近世から現代への歴史をたどることで「日本社会の歩み」について認識を深め、現代社会をより「意識的」に生きる姿勢を養う。歴史知識の多寡を問うのではなく、それを毎日の生活に活かせる歴史学的な方法を身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	<p>この授業では、近世から現代にいたる「日本社会の歩み」を、歴史学の考え方・平和社会・国際交流・自然環境・文化芸術の5つのテーマから、全15回分の話題を設定して学習していく。私たちが生きる現代日本に関心を持ち、そこに生起する諸問題を探求する態度を養うことが大切である。その方法の一つとして、問題を過去に遡って考察する（歴史学的方法）。講義の前週にプリントを配布する（予習しておくこと）。適宜、映像資料を使用して理解を深める。上記のように5つのテーマを扱うが、1つのテーマが終わるごとに、復習を兼ねて課題を出す。この課題は成績評価の資料として扱う。 【SDGs：11,13,16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 歴史学の考え方（1）過去と歴史はどうちがうか ② 歴史学の考え方（2）時代区分と現代社会のとらえ方 ③ 平和社会（1）近代の戦争 ④ 平和社会（2）戦国の時代相 ⑤ 平和社会（3）徳川の平和 ⑥ 国際交流（1）「鎖国」への道 ⑦ 国際交流（2）「四つの口」長崎貿易と朝鮮通信使 ⑧ 国際交流（3）「四つの口」琉球王国とアイヌ、開国 ⑨ 自然環境（1）日本列島の気候、小氷河期の近世、そして飢饉 ⑩ 自然環境（2）近世の自然環境と循環型社会 ⑪ 自然環境（3）災害と人びと ⑫ 文化芸術（1）大道芸と見世物 ⑬ 文化芸術（2）落語と講談 ⑭ 文化芸術（3）茶の湯 ⑮ 文化芸術（4）浮世絵 		
予復習等	<p>【予習】事前に配付する講義資料を読んでおくこと。 【復習】授業終了時に示す課題について、次週までにレポートを作成すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度10%、提出物（課題）90%		
履修条件	なし。		
教科書	なし（講義資料を配付する）。		
参考書	なし（必要に応じて、授業内で紹介する）。		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	吉田 琢哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>身近な対人関係の問題を主な題材として、学生が心理学的な考え方やものの見方を身につけることを目標とする。具体的には、学生が以下の事柄について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>(1) 心理学の成り立ち (2) 人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働き (3) 社会、教育および発達心理学の領域における人の心の捉え方</p>		
授業概要	<p>心理学は心の問題を中心的に扱う学問である。ただし、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心についての理解を深めることを目指す。具体的には、社会心理学・教育心理学・発達心理学の分野を中心に学ぶ。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。</p> <p>【SDGs：3, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション・心理学とは ② 他者を見る心 ③ 他者と比べる心 ④ 他者を好きになる心 ⑤ 親密な人間関係 ⑥ 他者から受ける影響 ⑦ 買い物の心理 ⑧ 人の発達 ⑨ コミュニケーションの技術 ⑩ 相手を説得する ⑪ リスク・コミュニケーション ⑫ 記憶のメカニズム ⑬ 学習のメカニズム ⑭ 犯罪の心理（1）犯罪とは何か ⑮ 犯罪の心理（2）身近な人への暴力 		
予復習等	<p>【予習】事前に資料を精読してくる事。 【復習】講義内容を復習しながら小レポートに取り組むこと。</p>		
評価方法	授業中に課す小課題への取り組み40%、毎回のレポート課題60%（4点×15回）。小課題は6回の未提出で不可とする。小課題とレポート課題の遅延提出は認めない。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中島 美幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が「ジェンダー」について学び、以下の4点を獲得することを目標とする。</p> <p>①無意識の偏見に気づき、ジェンダーセンシティブな視点を持つことができる。 ②多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。 ③将来のライブデザインを、より明確に描くことができる。 ④生きる力を高め、社会に対し主体的に働きかけることができる。</p>		
授業概要	<p>多様な選択が可能になったといわれる現代であるが、「男は仕事/女は家事」「男は強く/女は優しく」など、社会は男女で異なる役割を期待し、また多くの人も、それを当たり前と思いつけている。このように、社会や文化が作り出した性差をジェンダーと言う。この授業では、ジェンダーを作り出し、再生産している社会や文化の構造を明らかにするとともに、どのようにしたらジェンダーの縛りから自由になれるかを考える。そのために、過去の女性の生活や活動を知るとともに、現代の女性をとりまく様々な問題を考察する。そして、差別が解消された社会を展望する。</p> <p>【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 8, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 多様性とエンパワメント ② 作られる「女らしさ」「男らしさ」 ③ 「男らしさ」からの解放 ④ 暴力の根絶 ⑤ 性別分業の起源と歴史①世界 ⑥ 性別分業の起源と歴史②日本 ⑦ 50年後の日本を見据えて ⑧ 男女をめぐる国際比較 ⑨ 男女ともに働きやすい社会に ⑩ 女性解放運動の歴史～フェミニズム ⑪ 恋愛・結婚・家族とジェンダー ⑫ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ⑬ 母になる、父になる、ということ ⑭ 日本の課題～法律・制度・慣習 ⑮ 平等な社会を求めて～世界と日本の今 		
予復習等	<p>【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、男女に関するテーマに関心を向けること。 【復習】授業後に、確認テストに答え、小レポートを作成すること。</p>		
評価方法	毎回の、「確認テスト」(50%)と、「小レポート(授業の感想)」(50%)で評価する。		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし		

科目名	スポーツ&エクササイズ Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際・デザイン（1年前期）／健康（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが、挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみ方は多様であることを認識する ・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する ・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する 		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリー分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリー毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験(1) ③ 学内スポーツ施設体験(2) ④ チームスポーツ（攻守分離型）(1) ⑤ チームスポーツ（攻守分離型）(2) ⑥ ニューススポーツ(1) ⑦ ニューススポーツ(2) ⑧ チームスポーツ（攻守混合型）(1) ⑨ チームスポーツ（攻守混合型）(2) ⑩ チームスポーツ（攻守混合型）(3) ⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）(1) ⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）(2) ⑬ レクリエーションスポーツ(1) ⑭ レクリエーションスポーツ(2) ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	国際・デザイン選択／健康必修
開講学科	健康（1年前期）／国際・デザイン（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」と言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が身体の状態に与える影響を理解する ・運動には多様な楽しみ方があることを認識する ・自分に合う運動のタイプを認識する。 		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせられて実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験 ③ チームスポーツ（攻守分離型） ④ ニューススポーツ ⑤ チームスポーツ（攻守混合型） ⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型） ⑦ 講義「健康とは？運動しないとどうなる？」 ⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」 ⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」 ⑩ 体力づくり実践 		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報リテラシー Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用的手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Teams・Zoom・Word ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用的手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Teams・Zoom・Word ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる データを適切に収集し、データ分析を行うことができる データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的な概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威)とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的な概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Teams・Zoom・Word ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類の、収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	データサイエンス概論 Introduction to Data Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>人工知能(AI)やデジタルトランスフォーメーション(DX)、データサイエンスは、我々の生活の中に入りつつあり、今後、必要不可欠なツールになる。今後の社会を生きていくためには、AIやDX、データサイエンスを正しく理解し、使えるようにする必要がある。そこで、本講義では、AIやDX、データサイエンスの概略とデータを扱う上で必要な知識を学ぶ。 本講義の到達目標は、現代社会におけるデータサイエンスの役割が説明できること、データ分析に関する基礎的な分析方法を身につけること、そして、AIがどのような技術であるかを説明できること、である。</p>		
授業概要	<p>最初に、AIやDX、データサイエンスの出現によって起きた社会の変化やその重要性・必然性、国内外の科学技術政策について学ぶ。その後、AIやデータサイエンスのシステム、データ活用事例について学習する。次に、データやAIを取り扱ううえでの留意事項（データの収集方法やバイアスなど）・セキュリティについて学ぶ。ここでは、今後起こり得る社会的な問題についても学習する。続いて、実際のデータを用いて、データの読み方や分析手法について学ぶ。実際にデータを分析することで、学んだ知識の定着を行う。これによって、データリテラシーを身につける。最後に、AIやDX、データサイエンスの発展に伴う私たちの社会の変化と自分自身の将来について考えていく。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、社会で起きている変化口 ② データサイエンスの重要性・必然性 ③ データが変える社会 ④ データ活用プロセス ⑤ データ・AIが何に使えるか ⑥ データ活用事例に学ぶ（海外、国内、岐阜） ⑦ AIとは何か？ ⑧ AIの技術 ⑨ データ・AIにおける留意事項とセキュリティ ⑩ データの読み方 ⑪ データの説明 ⑫ データを扱う(1) ⑬ データを扱う(2) ⑭ データサイエンスとこれからの働き方 ⑮ データサイエンスと私たちの未来 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】 学んだ内容について再度プリントをよく読む。</p>		
評価方法	授業内課題60%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅰ（国際Aクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、比較的平易な英語での解説を聞き取ることができる。 2：受講生は、正確な英文読解ができる。 3：受講生は、自分の意見を英語で書いたり、発表できる。 4：受講生は、海外事情を学び、理解することができる。</p>		
授業概要	<p>世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。 【SDGs：4, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>予習：指定された箇所を読み、問題を解いておく。 復習：ダウンロード音声を使い、音声練習を行う。 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（20％）、小テスト（30％）、定期試験（50％）		
履修条件	なし		
教科書	On Board for More World Adventures／著：Scott Berlinほか／金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（国際Bクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたり、発表できる、④海外事情を学び、理解する。</p>		
授業概要	<p>世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。 【SDGs：4, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】ダウンロード音声を使い、音声練習を行う。 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。</p>		
評価方法	出席・態度：20％、小テスト：30％、定期試験：50％		
履修条件	なし		
教科書	『On Board for More World Adventures』/著：Scott Berlin他 /出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（国際Cクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたリ、発表できる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。 【SDGs：4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】ダウンロード音声を使い、音声練習を行う。 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	『On Board for More World Adventures』/著：Scott Berlin他 /出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（健康Aクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語のコミュニケーション能力の伸長を目的とする。到達目標は以下である。1) 英語で自己紹介することができる、2) 基本的な英語であれば、ナチュラルスピードの会話を理解することができる、3) 道を聞く、買い物をする、ホテルや空港のチェックイン・チェックアウトを行うなど、海外旅行に必要な基本的な英語を聞き取ったり、話したりすることができる。		
授業概要	CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、内容理解、ディクテーション、音読、ロールプレイ、シャドーイングなどのさまざまな活動をおしてリスニング力やスピーキング力を高め、実践的なコミュニケーション能力を養う。使用するビデオ教材は、海外旅行や海外留学・ホームステイを扱った内容なので、海外に短期・長期滞在する上で必須の実用的な英語を学ぶことができる。英語で自己紹介ができるようにする。 【SDGs：4, 5, 9】		
授業計画	① ガイダンス・スピーチ (Self-introduction) ② Unit 1: Getting information ③ Unit 2: Checking in at a hotel ④ Unit 3: Asking for directions ⑤ Unit 4: Renting a car ⑥ Unit 5: Ordering a meal ⑦ Unit 6: Shopping for clothes ⑧ 中間試験 ⑨ Unit 7: Asking for a favor ⑩ Unit 8: Meeting a friend ⑪ Unit 9: Checking out of a hotel ⑫ Unit 10: Expressing preference ⑬ Unit 11: Home stay ⑭ Unit 12: Offering to help ⑮ Review ⑯ 期末試験		
予復習等	授業内で配布された音声教材を使用し、ディクテーションやシャドーイング、音読練習。期末試験なに加えて、中間試験を行う。		
評価方法	出席状況・授業態度 40%、中間試験30%、期末試験30%		
履修条件	学修規程による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Viva! San Francisco』 Macmillan Languagehouse		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（健康Bクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたりリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome ③ Unit 2 Where Do You Live? ④ Unit 3 Is This the Elevator? ⑤ Unit 4 Is This the Princess? ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? ⑬ Unit 12 By All Means, Rome ⑭ 表現（例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』/ 著：渡辺幸俊他 / 出版：南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅰ（デザインAクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	松家 鮎美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語のリスニング・スピーキングを中心としたスキルを磨き、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、海外の文化について理解を深めると共に、世界中の、英語を母語としない人々のコミュニケーションについて触れ、英語発信の重要性について学ぶ。身近な話題や興味のある分野について、英語で発信することを目的とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：】 ①航空会社における、国際線の乗務。②米国テレビ局での勤務。】 教科書を用いながら、Unit毎のテーマを理解し、英語の基礎的な力を身に付ける。リスニングについては、英語の強弱やリズムについて理解をする。また、ディクテーションやシャドーイングに挑戦することで、内容理解の正確性を高めることを目指す。スピーキングについては、パターンプラクティスから英語表現力を身に付け、ペア・グループワークを通し、学んだ表現を使えるよう実践する。 【SDGs：4, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス, Unit 1 Graduation just Around the Corner ② Unit 2 Smiling Faces ③ Unit 3 Farewell to Friends ④ Unit 4 Japanese as a Communication Tool ⑤ Unit 5 Pursuing a Dream in Southeast Asia ⑥ Unit 6 Sports Journalism in the US ⑦ Unit 7 Feeling Homesick ⑧ Unit 8 More Chinese Students Studying Abroad ⑨ Unit 9 Tapping New Resources ⑩ Unit 10 Becoming a Filmmaker ⑪ Unit 11 A Helicopter Pilot ⑫ Unit 12 Bicycling Anyone ⑬ Unit 13 Helping Immigrants Learn German ⑭ Unit 14 A Young and Ambitious Reporter ⑮ Unit 15 Off to New York ⑯ 定期試験		
予復習等	[予習]各Unitを読み、分からない単語を調べる。授業の事前課題を行う。 [復習]教科書付属のCDを聞きながら、英文を音読する。		
評価方法	履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『Let's Talk with Friends Around the World! 世界の友と英語で話そう』著：行時潔 他 / 出版：松柏社		
参考書	授業中に、適時指示をする。		

科目名	英語Ⅰ (デザインクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたりスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。 【SDGs : 4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome ③ Unit 2 Where Do You Live? ④ Unit 3 Is This the Elevator? ⑤ Unit 4 Is This the Princess? ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? ⑬ Unit 12 By All Means, Rome ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』 / 著: 渡辺幸俊他 / 出版: 南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅱ (国際Aクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語のリーディング力やリスニング能力を伸ばし、さらに英語で場면을要約する力や自分の考えを発表できる力を付けることを目的とする。到達目標は、1) 映画で使用される自然な英語を聞いて概ね理解することができる、2) テーマと関連する基礎的な英文を読み、理解することができる、3) 映画でよく使用される自然な表現を使って、コミュニケーションができる、4) 英語で自分の考えを表現できる、の4点である。		
授業概要	ビデオ・音声教材を使用し、アメリカの社会問題を扱った映画を題材に、英語のリーディング力やリスニング力を伸ばすとともに、英語の表現力を高める。また、語彙や文法力も高め、音読やシャドーイング練習にも力を入れる。映画の場면을ペアで練習することで、英語のリズムを身に付ける。アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、英語で場面要約する力や自分の考えを表現できる力を付ける。期末試験に加え、語彙や文法の小テストを行う。また、授業外多読課題を課す。 【SDGs : 3, 4, 5, 6, 11, 12, 15】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 2: Job Hunting (Reading) ③ Unit 3: Job Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4: Discovery (Reading) ⑤ Unit 5: Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6: Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7: Getting Ready for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Unit 8: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑨ Unit 9: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑩ Unit 10: Binding Arbitration (Reading) ⑪ Unit 11: Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑫ Unit 12: Settlement (Reading) ⑬ Unit 13: Settlement (Audio-Visual Learning) ⑭ Unit 14: The Real Erin (Extra Reading) ⑮ Review ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】各UnitのVocabulary Check, Vocabulary in Use 【復習】リーディング、リスニング教材の復習、音読、シャドーイング		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、小テスト20%、多読課題20%、期末試験40%		
履修条件	なし		
教科書	『English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich』 Kinseido		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ（国際Bクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語のリーディング力やリスニング能力を伸ばし、さらに英語で場面を要約する力や自分の考えを發表できる力を付けることを目的とする。到達目標は、1) 映画で使用される自然な英語を聞いて概ね理解することができる、2) テーマと関連する基礎的な英文を読み、理解することができる、3) 映画でよく使用される自然な表現を使って、コミュニケーションができる、4) 英語で自分の考えを表現できる、の4点である。		
授業概要	CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、アメリカの社会問題を扱った映画を題材に、英語のリーディング力やリスニング力を伸ばすとともに、英語の表現力を高める。また、語彙や文法力も高め、音読やシャドーイング練習にも力を入れる。映画の場面をペアで練習することで、英語のリズムを身に付ける。アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、英語で場面要約する力や自分の考えを表現できる力を付ける。期末試験に加え、語彙や文法の小テストを行う。 【SDGs : 3, 4, 5, 6, 11, 12, 15】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 2: Job Hunting (Reading) ③ Unit 3: Job Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4: Discovery (Reading) ⑤ Unit 5: Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6: Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7: Getting Ready for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Unit 8: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑨ Unit 9: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑩ Unit 10: Binding Arbitration (Reading) ⑪ Unit 11: Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑫ Unit 12: Settlement (Reading) ⑬ Unit 13: Settlement (Audio-Visual Learning) ⑭ Unit 14: The Real Erin (Extra Reading) ⑮ Review ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】各UnitのVocabulary Check, Vocabulary in Use 【復習】リーディング、リスニング教材の復習、音読、シャドーイング		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、小テスト20%、期末試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich』 Kinseido		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ（国際Cクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業は、主に読解力の向上を目的とする。テキストのさまざまなトピックについて、必要な情報を把握できる速読力を身につける。さらに内容に関する意見をまとめ、それをペアあるいはグループで英語による意見交換をする。こうして英語の4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）の上達を計る。		
授業概要	目標を達成するため、下記の通り授業を行う。 (1) テキスト掲載のエッセイを読み、個人およびグループで発表する。 (2) 単語や慣用表現、文法などについて把握する。 (3) 内容を把握するために問題に取り組む。(4) 速読課題をTeamsに送信する。 (5) エッセイで取り上げられたテーマについて、ペアやグループでディスカッションをする。 【SDGs : 3, 4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス Unit 1 The Beauty of the Seasons ② Unit 2 The History of the Hamburger ③ Unit 3 The Importance of English ④ Unit 4 How the Internet Evolved ⑤ Unit 5 loquid Candy, Unit 6 Travel in Japan ⑥ Unit 7 The Secret of Happiness, Unit 8 Shopping on the Internet ⑦ Unit 9 Do Aliens and UFOs Exist? Unit 10 The Happiest Country ⑧ Review ⑨ Unit 11 Secondhand Smoke ⑩ Unit 12 Plastic Surgery ⑪ Unit 13 What Colors Tell about You, Unit 14 Free Music ⑫ Unit 15 Ghosts, Unit 16 Fast Food and Health ⑬ Unit 17 Artificialinsemination, Unit 18 The Dangers of Credit Cards ⑭ Unit 19 Young Men, Unit 20 Old Media and New Media ⑮ Unit 21 Women in College, Unit 22 Gene Therapy ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。 【復習】授業後に、重要語句や慣用表現、文法を復習すること。エッセイの内容を振り返り、定期試験 に備える。		
評価方法	授業内課題と小テスト50%。定期試験50%として総合的に評価する。		
履修条件	学修規定による。（授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない）		
教科書	Life Topics ISBN9784523176893		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	英語Ⅱ（健康Aクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。（英語1で学んだことを基礎として、同じ教科書を使用して発展・応用を試みる。） 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome（発展・応用） ③ Unit 2 Where Do You Live?（発展・応用） ④ Unit 3 Is This the Elevator?（発展・応用） ⑤ Unit 4 Is This the Princess?（発展・応用） ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You（発展・応用） ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted（発展・応用） ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday（発展・応用） ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth（発展・応用） ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty!（発展・応用） ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe（発展・応用） ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe?（発展・応用） ⑬ Unit 12 By All Means, Rome（発展・応用） ⑭ 表現（例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など）（発展・応用） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』/ 著：渡辺幸俊他 / 出版：南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅱ（健康Bクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。（英語1で学んだことを基礎として、同じ教科書を使用して発展・応用を試みる。） 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome（発展・応用） ③ Unit 2 Where Do You Live?（発展・応用） ④ Unit 3 Is This the Elevator?（発展・応用） ⑤ Unit 4 Is This the Princess?（発展・応用） ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You（発展・応用） ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted（発展・応用） ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday（発展・応用） ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth（発展・応用） ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty!（発展・応用） ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe（発展・応用） ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe?（発展・応用） ⑬ Unit 12 By All Means, Rome（発展・応用） ⑭ 表現（例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など）（発展・応用） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』/ 著：渡辺幸俊他 / 出版：南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅱ (デザインAクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。(英語1で学んだことを基礎として、同じ教科書を使用して発展・応用を試みる。) 【SDGs : 4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome (発展・応用) ③ Unit 2 Where Do You Live? (発展・応用) ④ Unit 3 Is This the Elevator? (発展・応用) ⑤ Unit 4 Is This the Princess? (発展・応用) ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You (発展・応用) ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted (発展・応用) ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday (発展・応用) ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth (発展・応用) ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! (発展・応用) ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe (発展・応用) ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? (発展・応用) ⑬ Unit 12 By All Means, Rome (発展・応用) ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) (発展・応用) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』/ 著: 渡辺幸俊他 / 出版: 南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅱ (デザインBクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。(英語1で学んだことを基礎として、同じ教科書を使用して発展・応用を試みる。) 【SDGs : 4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome (発展・応用) ③ Unit 2 Where Do You Live? (発展・応用) ④ Unit 3 Is This the Elevator? (発展・応用) ⑤ Unit 4 Is This the Princess? (発展・応用) ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You (発展・応用) ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted (発展・応用) ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday (発展・応用) ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth (発展・応用) ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! (発展・応用) ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe (発展・応用) ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? (発展・応用) ⑬ Unit 12 By All Means, Rome (発展・応用) ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) (発展・応用) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』/ 著: 渡辺幸俊他 / 出版: 南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅲ [国文] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションや外国に行く時における様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。以上のことを個人およびペアやグループディスカッション、さらにプレゼンテーションを通して行う。 【SDGs:10,16,17】		
授業計画	① インTRODクシヨソ ② Unit 1 Travel ③ Unit 2 Jobs and People ④ Unit 3 Getting on the plane ⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs ⑥ Unit 5 At the Airport ⑦ Unit 6 Hotel ⑧ Unit 7 Restaurant ⑨ Unit 8 Sightseeing ⑩ Unit 9 Shopping ⑪ Unit 10 Transportation ⑫ Unit 11 Problems and Compliments ⑬ Traveling in Japan (1) ⑭ Traveling in Japan (2) ⑮ Traveling in Japan (3) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。 【復習】 授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること。		
評価方法	平常点(授業参加度、貢献度、対話発表、小テストその他)50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規程による。(授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない)		
教科書	『ENGLISH for Tourism <Basic>』 / 著：観光英検センター / 出版：三修社		
参考書	英語辞書必携		

科目名	英語Ⅲ [食栄・生デ] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	食栄・生デ (2年前期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。 【SDGs : 4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome (発展・応用) ③ Unit 2 Where Do You Live? (発展・応用) ④ Unit 3 Is This the Elevator? (発展・応用) ⑤ Unit 4 Is This the Princess? (発展・応用) ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You (発展・応用) ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted (発展・応用) ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday (発展・応用) ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth (発展・応用) ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! (発展・応用) ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe (発展・応用) ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? (発展・応用) ⑬ Unit 12 By All Means, Rome (発展・応用) ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) (発展・応用) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】 質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)60%、定期試験40%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』 / 著：渡辺幸俊他 / 出版：南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅳ [国文・食栄・生デ] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国文・食栄・生デ（2年後期）	科目区分	演習
担当者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>英語をリスニングとリーディングの両面で英語力を向上させるのを目的とする。目標は次の通り。</p> <p>(1) 英語の音声的特徴（特に連音で生じる現象）を理解する。 (2) 比較的長いスピーチやダイアログが理解できるようになる。 (3) 300単語前後の英語の文章の内容が的確に理解できるようになる。 (4) 簡単な英文を書いたり話せたりできるようになる。</p>		
授業概要	<p>(1) 英語で起こる音声変化などを一つずつ取り上げて説明する。 (2) それを踏まえて英語音声聞き取る練習させる。その際、シャドーイングやオーバーラッピングの手法を使う。 (3) 長文をスラッシュリーディングの手法で読む訓練をする。ただし、曖昧な理解のまま読む進みではなく、正確に理解できるよう詳細な説明を加える。 (4) 短い英文を書くことを通して、語彙や文法知識を身につくようにする。</p> <p>【SDGs : 4】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② UNIT 1 Goals in College Life ③ UNIT 2 Totoro Travels to Nepal ④ UNIT 3 Sightseeing in London ⑤ UNIT 4 Sushi ⑥ UNIT 5 Fashion Trends ⑦ UNIT 6 Shodo ⑧ 中間試験 ⑨ UNIT 7 The Mississippi River ⑩ UNIT 8 Ocean Blue ⑪ UNIT 9 Studying Abroad ⑫ UNIT 10 The Northern Lights ⑬ UNIT 11 The Sound of the Saxophone ⑭ UNIT 12 Communication Tips ⑮ Review ⑯ 期末試験</p>		
予復習等	<p>【予習】当該ユニットのExercisesをすべてやってから授業に臨む。また、本文にスラッシュを入れて読んでおく。 【復習】授業中で学んだ単語や文法事項を整理する。また、授業中ではシャドーイングなどをす時間が十分とれないので、家で何度も繰り返し練習する。</p>		
評価方法	授業参加度（予習課題の質問に答えるなど） 40%、中間試験30%、期末試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『Amazing Visions of the Future 国際社会への英語の扉』南雲堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	フランス語Ⅲ French III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>Bonjour ! と笑顔で言えることが一番大切だと思っています。フランス語文法を学び「話す」「聞く」「書く」のスキルを身につけていける授業です。思いは言葉となり形になります。ゆたかなコミュニケーションの力が自然についていくようにSDGsの目標をもとにしたトピックスの紹介や、岐阜県の魅力を再認識する内容をフランス語で表現する練習もします。フランス語の文法は実際のフランス語検定試験問題を使って復習して検定試験合格も目標とします。</p>		
授業概要	<p>On n'a qu'une vie. 人生は一度きりというフランス語のことわざです。フランス語を学ぶことで、みなさんにはフランス語で物事を考える思考の窓が作られます。自然に身につけていくような例文でわかりやすく会話表現を学んでいきます。教科書以外の教材を工夫してみなさんが楽しく学べるように工夫していきます。フランス語で歌っているみんなが知っている曲も聞いて時々はいっしょに歌ってみましょう。フランス語が大好きになってフランスに興味を持ってもらって、そして日本の良さをさらに理解できる外国語授業にします。</p> <p>【SDGs : 6, 7, 13】</p>		
授業計画	<p>① フランス語Ⅱの復習 ② Dossier 1 ③ 冠詞、形容詞、代名詞の復習 ④ Dossier 2 ⑤ 動詞の復習、過去形の使い方 ⑥ フランスの暮らし方を日本と比較して、感想をフランス語で言ってみよう ⑦ Dossier 3 ⑧ 天気表現、手紙表現 ⑨ 時間の表現、未来形の復習 ⑩ 日記を書いてみよう ⑪ Dossier 4 ⑫ 強調構文、未来日記を書いてみましょう ⑬ フランス語検定試験問題4級レベルと3級レベルにトライ + 詳しい解説 ⑭ みなさんのふるさとをフランス語で紹介してみましょう ⑮ フランス語Ⅲのまとめ ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	フランス語の2年目なので、秋のフランス語検定試験を無理なく受けられるように例文を覚えて活用を練習して、応用力をつけるための 復習30分。音読30分。検定試験問題25分。フランス語で日記5分。		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「シヴィ・ラング」 Michel Sagaz・中里まき子 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	フランス語Ⅳ French IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>いよいよ2年間のしめくくりの後期です。フランス文化・伝統を理解しながら日本のゆたかさもあらためて学ぶことで、日仏両方のすばらしさを知る2年間になったと思います。言葉の力は、ひとりひとりの可能性をさらに引き出していくことです。学際的視野に立ち、あたたかなコミュニケーション力を身につける目的に到達しましょう。ますます多様性が求められる社会になります。確実な外国語能力はみなさんの一生の財産となります。検定試験にもチャレンジしてみましょう。</p>		
授業概要	<p>フランス語特有のリズム感。英語とは異なる文法。初級から中級、中級から上級への準備となる「話す」「聞く」「書く力」が身につけていきます。笑顔でフランス語を話している自分をイメージできる授業にします。実際に伝わるフランス語を学び、みなさんひとりひとりに自信を持っていただきたいです。SDGsの目標の中から大切なことを選び、自分の暮らしに生かしていけるきっかけになったら幸いです。フランス語を大好きになってもらえる授業にしていきます。</p> <p>【SDGs：9, 11, 14, 15】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① フランス語Ⅲの復習 ② Dossier 5 ③ 命令形 ④ 現在形の復習 ⑤ Dossier 6 ⑥ 時を表す表現、食文化を表す表現 ⑦ 目的代名詞・中性代名詞の復習 代名動詞 前置詞の復習 ⑧ Dossier 7 ⑨ 過去形、未来形、受動態の復習 ⑩ 岐阜県をフランス人に説明するパンフレットをフランス語でつくろう [SDGs⑨⑩⑭⑮] ⑪ フランス語検定試験問題4級レベルと3級レベルにトライ + 詳しい解説 ⑫ Dossier 8 ⑬ 小学生のためのミニフランス語教科書を使ってみましょう ⑭ 10年後の自分にフランス語で手紙を書いてみましょう ⑮ フランス語Ⅳのまとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>いよいよ2年間の仕上げの時期です。日常会話や単語を覚えて実際に使っていけるように音声確認30分。音読25分。検定試験問題35分。</p>		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「シヴィ・ラング」 Michel Sagaz・中里まき子 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思っていますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学生活をスタートさせるにあたり、主体的な学修に必要な学びの技術と表現の技術を身につけることを目的とする。本演習では演習課題を行いながら、ノートの取り方、口頭発表の仕方、文献検索、レポートの書き方、小論文の書き方などの基本的なスキルを身につけ、大学生に相応しい表現ができることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>大学生に必要な学びの技術と表現の技術を身につけるため、テキスト付属のトレーニングシートを使い、毎回テーマに応じた演習課題を行う。演習課題は複数の担当教員がきめ細かく指導する。テキストでは主体的学修と的確な表現能力の向上を目指し、ノートの取り方、文献調査方法、資料の読み方を学修し、口頭発表を行ったり、レポートや小論文を仕上げ、発表を実践的な演習として体験する。</p> <p>【SDGs：4, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑥⑦⑨】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 図書館ガイダンス ③ 大学でのノートの取り方 ④ メールの書き方 ⑤ 説明のコツ ⑥ 学外研修 事前調査 ⑦ 学外研修 岐阜市内見学 ⑧ 効果的なプレゼンテーション ⑨ 発表 ⑩ 大学生の調べ方1 ⑪ 大学生の調べ方2 ⑫ 資料の読み方 ⑬ 堅実なレポートの書き方1 ⑭ 堅実なレポートの書き方2 ⑮ 小論文の書き方 ⑯ 小論文 		
予復習等	<p>【予習】各回の担当教員が指示する。 【復習】各回の担当教員が指示する。</p>		
評価方法	出席・態度：40%、発表：30%、小論文：30%		
履修条件	なし		
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』編著：橋本修他/ 出版：三省堂		
参考書	各担当者が授業で指示する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように役立ちたいか?」、「そのための必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢へと変換する。</p>		
授業概要	<p>大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集（文献・資料の検索方法）、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などをグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。健康栄養学科では、とくに「食」と「健康」に関する話題を取り上げて学ぶ。</p> <p>【SDGs : 3, 4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 自己紹介 ③ 講義・ノート術 ④ プレゼンテーション(1) ⑤ プレゼンテーション(2) ⑥ 図書館ガイダンス ⑦ レポート術 ⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1) ⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2) ⑩ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3) ⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1) ⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2) ⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3) ⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4) ⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5) ⑯ レポート・論文提出 		
予復習等	<p>【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、理解する。</p>		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、発表30%、レポート・論文など提出物40%		
履修条件	なし。		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』／著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	各担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。</p> <p>【SDGs : 4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標 ② 講義ノートをとる力の習得 ③ テキストを読む力の習得 ④ 文献を調べる力の習得 ⑤ レポートを書く力の習得 ⑥ レポートをまとめる力の習得 ⑦ 成果を伝える力の習得 ⑧ 学外研修 ⑨ 学外研修 ⑩ 学外研修 ⑪ 学外研修 ⑫ 特別講義（1回目） ⑬ 特別講義（2回目） ⑭ 卒業研究中間発表会 ⑮ 卒業研究中間発表会 		
予復習等	<p>【予習】教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】学んだことを他の講義等で実行すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加（レポート提出）、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第5版」		
参考書	なし		